

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	膵癌症例に対する十二指腸ステントの有用性の検討
	研究目的	膵癌に伴う悪性胃十二指腸狭窄に対する治療として、長期生存が見込まれる症例には胃空腸バイパスが多く選択される。一方で十二指腸ステント留置も有効な治療の1つである。当科では悪性胃十二指腸狭窄に対する第一選択としてPS、患者負担、食事開始までの開始期間、治療開始までの期間などを考え十二指腸ステント留置を第一選択として加療をおこなっている。当科で施行された十二指腸ステント症例をretrospectiveに検討しその有用性、安全性のデータ解析を行う。
	研究対象者	当院で2010年4月から2019年10月に胃十二指腸狭窄に対する十二指腸ステント留置を行った膵癌患者
	研究期間	西暦 2020年 2月 27日 ~ 西暦 2021年 3月 31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	森本 学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科 肝胆膵内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	特記事項なし